

社会福祉法人 湖北会

ありがとう30年

30th ANNIVERSARY



■
広報

こほくかい

特別号

湖北会設立三十年に思う



社会福祉法人 湖北会
理事長 赤井 耕太郎

法人設立三十年とは早いものです。私達湖北の保護者の親のつどい・県育成会の組織「手をつなぐ親達」が湖北に入所施設をとの願いで、初代松村理事長を中心として組織作りに奔走した事が昨日のように思われます。

現在の「湖北まこも」の誕生には、武村知事英断で設立出来た事や、当初は現在の伊吹高校の地に九分九厘決まっていたのが高校再編で教育委員会に押し切られてしまった事など懐かしい限りであります。

湖北会も今日では県下有数の施設となり、利用者も500人を超え、職員数も250人以上のマンモス集団となりました。初代理事長松村先生が存命ならば驚いておられることでしょう。

従来、湖北会はハード面の充実を図られてきたが、今後は、ソフト面の充実をが居心地の良い「終の家」として、家族的な雰囲気^{かみ}を醸し出すような温もりのある少人数の集団で暮らすものになりたい。グループホームやケアホームがいくつも集まっているような、そんな施設をつくりたいと思っている。

利用者も高齢となり、最近では保護者（両親）のいない利用者が半数を占めている。その子を置いて死んで行くのが忍びない事は、障害者全てに言える事である。これからの湖北会は、大きくなるだけではなく、正しい事を正しいと言える、世間の皆様から崇められる崇高な団体として歩んでいきたいと思っている。

まだまだ、施設はケアホーム・グループホームの数は足りないが、保護者としても目を開いて取り組んでいかなければ箱物の建設はおぼつかない。国・県・市も今日の財政では建設の半額も見込めないであろう。無理は言うまい、自分たちの創意工夫を施すことが肝要である。

これからも夢の実現に向けて、関係機関の絶大なご支援を切にお願いするものである。

湖北会30周年を迎えて

社会福祉法人 湖北会
常務理事 嶋崎 雅之



♪あしたがあるさ、明日がある。若い僕には夢がある♪

以前流れたテレビCM、娘さんから「お父さんの夢は何？」と問われて、戸惑う父親。「幾つになっても夢を見ていいんだよ」と嬉しく感じた次第です。

法人も30歳。設立当初を振り返ると、ここまで大きくなっているとは誰が想像できたことでしょうか？様々な方のご理解・ご協力のお陰と感謝に堪えません。

嬉しいこと 悲しいこと 色々あった30年。後半の10年間は、支援費制度・自立支援法としょうがいを持つ方を支える制度が目まぐるしく変わり、関係者を含めとりわけ当事者の方たちが、その対応に一番苦勞されたように思います。

法人としては、「制度が変わろうとご本人のしょうがいが変わることはなく、ご本人が必要とする支援に変わりはない」「お一人おひとりの特性に向き合い、今出来る支援を提供していこう」と歩んできました。この方針は、法人理念である「すべてはあなたの笑顔のために」に通じるものと考えます。

日本を取り巻く社会の変動、利用者さんの願い、ご家族の意向、職員の熱意などなど色々な想いを背負いつつ、法人設立に汗を流していただいた先人の願いを大切に、立ち止まることなく、新たな夢に向かって、また一步。歩んでいきたいと存じます。

まだまだ30歳。

元気出して行きましょう。



ありがとう 30 ねん



湖北まこも 久澤正禪

湖北まこもの敷地には桜の木があり、毎年春には満開の花を楽しませてくれ 30 年という年輪を刻みこんできました。20 歳で入所された方も、50 歳を迎えられるわけです。当然、平均年齢も今年で 52.1 歳となりました。元気に運動会で走っておられた利用者さんも車椅子生活になったり、頭髮もあちらこちら白くなって歯も抜け義歯使用の方も増えてきました。建物はあちらこちら修繕が必要になってきています。台風時等は雨漏れのする場所も数か所できてきました。備品関係も破損・故障と買い替えが絶えません。よく 30 年の風雪に耐えてくれていると感謝の毎日です。

こんなことを文頭に書くと暗くなってしまいましたが、建物自体の老朽化は顕著に出てきている事は確かです。家族会でも会員の皆さんが湖北まこもの建て替えを切望されています。職員からは「球を交換しても蛍光灯が付きません」「雨漏れしています」「蛇口が漏れています」と頻りに声がかかり、メンテの業者からは、「〇〇が交換時期をかなり過ぎています」「取り換えが必要です」など点検事項が次から次へと上がってきます。思ってもいなかった修繕費が羽をもったかのように飛んでいきます。

利用者さんの体力低下もかなり足早に訪れ、車椅子や歩行器使用の方も増え廊下や浴室、洗面所も支援・介助を行うにはかなり手狭になっています。かたや若くて元気な方は喜んで廊下などを闊歩されています。そういった環境の中での支援には転倒・ケガ・争いといったリスクも必然的に高くなり、職員が 1~2 人増えてもおぼつかない状態が続いています。

一時、あそしあと湖北まこもで、高齢者や体力の低下がみられる方と元気に走り回る事が出来る方に分けてみてはというような案も出ていたように思いますが、なかなか難しい一面を持っているようです。

兎にも角にも、修理修繕には伺いを立て事業所努力はしているものの、今現在暮らしておられる湖北まこもの利用者さんにとって、決して安心・安全に暮らしていける環境ではありません。

今後、湖北まこもは「建て替え」という大きな目標を前に、法人の「湖北まこも改築部会」や湖北まこもの家族会とともに、早急な「一步」を踏み出す時期に差し掛かっていると思っています。





ワークスさかたの歩み

ワークスさかた 大岩憲市

私が湖北会にお邪魔したのは、まいはら共同作業所（平成3年4月1日開所）を増改築（20名定員ギリギリの床面積）し、知的障害者通所授産施設として、さかた作業所（現ワークスさかた）として平成7年4月1日開所した時でした。

またその当時、精神障害者の知的障害者通所授産施設での併用利用は認められておらず、行き場のなくなる精神障害者の方のために、まいはら共同作業所をも併設するといった開所でした。

その頃の作業の主体はフジッコの出し昆布の袋詰め作業で、不良品を見極めながら指定のグラム数に仕上げる仕事でした。（今だから言えますが、昆布かすを食べながら計量していたなあ。）

現在の仕事内容は、メンテナンス事業（H24.5彦根メンテは終了してしまいましたが）・シートベルト部品組み立て・おいでやす長浜（平和堂）店舗事業が中心になっています。

おいでやす長浜においては、店舗の立ち上げから活動内容を見させてもらっていましたが（外からですが）最初は客商売ということで戸惑いのあった利用者さんも現在では店舗のスタッフとして頼もしくなって、私が店に応援に行くと、利用者さんに「トレイはここにおいてください」「お箸はここに捨ててください」など注意されっぱなしで申し訳ないと思いつつも頼もしく思えるほどです。

平成20年4月にワークスさかた（就労継続支援B型）として生まれ変わり、仕事内容も所内作業中心から事業所外中心に変わっていきました。

所内作業（内職作業）は単価が低く1つしても1円、時には0.5円（そんな単価日本には存在しないのに・・・所内作業も大切です。）事業所外に出ることにより、時給で工賃がもらえたり、委契約して安定的に仕事が頂けたりするだけではなく、社会とのつながりが生まれることが大事だと考えます。会社の方と話をしたり、時にはおしかりをうけたりを自ら経験することで仕事の大切さや大変さがわかり、そこから次へのステップを一緒に考えていけたらと思います。

湖北会理念にもありますように、やっぱ 笑顔 何事も楽しみながら仕事は楽しいものではありませんが、私たちが楽しくない仕事を楽しく・前向きにとらえられるようにできればと思います。

事業所にいる時間は、自宅やホームで過ごす時間と変わりません。（寝ている時間は除きますが）その貴重な時間をお互いに共有しているのですから、支援員も楽しくることにより、利用者さんも楽しくできるようにしていきたいと思います。

今までの歴史やかかわりを大事にしながら、それをうまく継続していき、皆さんの思い・夢・希望のお手伝いが出来ればうれしいです。



まだ三十年

あそしあ 岸田惣吾

湖北にも入所施設を」との願いから法人が設立されて三十年。その間に色々な人の思いが集まり、多彩な事業が展開をしてこられたものと感じている。そして『あそしあ』もそのひとつ…

伊吹山が見える東側には片側二車線の国道が走り、反対の琵琶湖側には昔ながらの旧家からアパートが立ち並ぶ住宅街。そして目の前には病院が立ちはだかっている。そんな市街地に開所されて早十五年。

一般的には閉鎖的なイメージが付きまとう入所施設であるが、「自ら地域との壁を作らない」という理事長の思いにより、垣根ひとつの外観は地域に違和感を与えず開放的である。そんな環境を受け、入所であっても施設に閉じこめない…とにかく地域を意識した試みは、生活のメリハリと利用者の働く意欲を生かす職住分離として、現在十七名の方が地域へ通所するまでになっている。また施設が狭いことを逆手にとって、公民館や体育館と活動の場所を求め、コンビニやレンタル・本屋、喫茶などに出掛け、少しでも地域と隔たりのない生活を意識している。

しかし施設内を見渡せば、まだまだ課題を多く抱えている。例えば、相部屋の居室を含め生活棟の環境は、狭くて利用者全員のプライベートが確保できない。また深くて角張った浴槽は、高齢になられてきた利用者にとっては使いにくく危険が伴う…設備面ばかりではない。利用者のご家族や地域の方から苦情や要望もしばしば頂いているのも事実。

倉庫を覗けば、前任職員が試行錯誤され取り組んでこられた歴史が残っている。利用者、そのご家族、そして地域の方々に理解、そして後押ししていただいた十五年。歴史を糧に、また感謝しつつ「もう」じゃなく「まだ」十五年として前を向いていきたい。

法人も、まだ三十年。理念に掲げた「**すべては、あなたの笑顔のために**」は、これから再スタートである。



いごこちのよい森

ふくらの森 大岡 賢至

ふくらの森は、平成8年4月に一部行政事務組合東浅井郡ふくら作業所として開設され、平成12年に湖北会に運営を委託されました。平成20年4月に法人が障害者自立支援法に基づく運営に移行したのに伴い、施設名称を「ふくらの森」に変更し、生活介護の事業を展開することとなりました。

はたらくこと（生産活動）と楽しむこと（創作活動）を組み合わせながら、その人に合った過ごし方を考えていくのが生活介護の役割となりますが、ふくらの森は安定した生産科目をもっていることが大きな強みであり、企業からのご協力に深く感謝をしています。また、リサイクル作業や自主製品としてお菓子製造をするなど、豊富な仕事があることで、利用者皆様のもっている力を発揮する機会を多くつくることができています。楽しむ活動では、施設近くには大きな公園や体育館、図書館等地域の社会資源がたくさんあります。これらの資源を大いに利用させていただきながら、日課を組み立てていくことができるのは大変ありがたいことだと感じています。

このような恵まれた環境にある中で、これからふくらの森が考えていくべきことは、利用者一人ひとりに応じた支援をしっかりとかたちにしていくことだと思います。30年という時代のながれの中で、しょうがいに対する捉え方はずいぶん変わってきました。施設の日課に利用者に慣れてもらうような指導から、利用者ひとり一人の求めていることを見極め、または発見し、その人にあったその人らしい過ごし方を応援できる支援へと意識は変化しています。施設中心から利用者中心の視点が求められるようになり、私たちがどのような姿勢で利用者と向き合うことができるのか、まさに支援力が問われてきていると思います。そのことにこたえていくためには、職員皆が同じ方向を向いて仕事にあたっていくことが大切です。個人の感覚による支援ではなく、法人・施設の理念のもと、より良い支援をしていくためにどうすればいいのか、意見を交わし合いながら、切磋琢磨しながら取り組んでいくべきでしょう。

法人設立30年という大きな節目を機会として、このようなことをもう一度見つめ直し、ふくらの森の利用者が生き生きと楽しく通所していただける施設運営に尽力していければと思います。それぞれの立場・役割から、自分たちがなすべきことをしっかりと考え行動していければきっとよい施設運営がしていけるものと思います。

ふくらの森では「三方よし（利用者・家族よし・事業所よし・地域よし）」という施設理念を掲げています。迷った時には、施設理念を思い返し、私たちが何を大切に仕事をしているのかを振り返りながら、課題に立ち向かっていきたいと思っています。利用者にとって少しでもよい施設へと近づいていくことは、働く私たちにとっても良い職場となるはずです。そして、そのことが地域からも信頼される施設になっていくことでしょう。

これまでふくらの森をご支援して下さった皆様に感謝し、これからも素直に皆さまの声に耳を傾けられる職員集団を目指しながら、ふくらの森が皆さまにとって、いごこちのよい森へとなるように努力していきたいと思っています。

伊吹山に抱かれて

いぶきやま

30th ANNIVERSARY

いぶきやま 小川洋一

現在私は、間近に見える伊吹山の四季折々の姿を見ながら、4回目の秋を迎えています。異動前は入所にて、びわ湖岸より東の山々の中の遠くに伊吹山を眺めていましたが、ここ、いぶきやまによせていただくことになり、この雄大な山の麓で仕事ができることに喜びを感じています。ただ、異動したその冬から迎えてくれたのが今までにない大雪…。ここ毎年、雪と仲良しになっています。雪には慣れているもののさすがに自然の力は大きなものですね。

この事業所、いぶきやまはもともと共同作業所として開所され、平成14年4月より社会福祉法人湖北会「伊吹山藤の根作業所」として現在の土地に新設されました。また、平成20年4月より新体系に移行し、生活介護・就労継続支援B型の2種類の事業を開始し、名称を「社会福祉法人 湖北会 いぶきやま」とし、現在に至っています。新設依頼10年近くになりますが、開所当時より何かメインとなる自主製品がないかと出来

たのが「大豆まるごと栄養豆腐・豆乳」です。この土地ならではの商品かと思えます。今では、B型の就労収入の中で4割近くを占めています。この豆腐は他の豆腐と違い、おからが出ません。大豆をまるごと微粉碎して仕上げますので大豆本来のコクのある甘みがあり、食物繊維も多く、口当たりもなめらかなおいしい豆腐です。この豆腐をイメージとして商品名も『豆姫』として、パッケージを新たにしました。現在、地産地消として市内の学校給食にも使ってもらっています。また、道の駅や、アルプラザ長浜にても販売しています。施設内店舗において

は中京方面からのお客さんもよく寄っていただいています。このように、豆腐の製造販売に関しては、中で製造に携わっていただいている利用者さんも、自信を持って自分たちの手で作った豆腐『豆姫』として大事にしています。また、秋から冬にかけてはおいしい焼いもも販売します。ぜひご利用ください。

いぶきやまは、先にも書きましたように、生活介護とB型の多機能事業所です。両方とも下請の仕事もしています。それぞれに重要な仕事を受け持ち、企業さんとの信頼も得ながら、大きな落ち込みもなくこなしています。さらに、生活介護では、午後の活動には積極的に参加し、音楽療法、ウォーキング、粘土等、利用者の皆さんが思い思いに参加されています。いぶきやまではこの2つの事業をうまく利用しつつ、連携をとりながら支援にあたっています。

今後も、この伊吹山の自然をたくさん感じながら職員、利用者共々がいきいきとした活動の中で、ひとり1人の思いがかなうよう応援していききたいと思います。





さぼてんのようにちからづよく!

ワークスさぼてん 山崎悦司

ワークスさぼてん、障害者自立支援法に基づく事業体系に変わる際、名称も変わり名前の響きからも感じられるように、働きことが主となる事業所となり、早4年が過ぎました。

思い返せば平成15年4月に、ここ旧びわ町富田にさぼてん作業所を設立させていただきました。それまで、浅井町内保のふくら作業所が東浅井郡では唯一の日中活動の場でした。利用者も徐々に増え、旧4町で新たな作業所をとの想いが、さぼてん作業所に繋がりました。ふくら作業所から分家したという表現そのままに、利用者の皆さんも出来るだけ近いところへ通いたいとの想いなどから、さぼてん作業所が出発しました。

昭和50年代にここ富田町にさぼてん共同作業所があり、平成9年東浅井郡組合立ふくら作業所開所と同時に移行されたと聞いています。「さぼてん」という名称の由来は、再び、この富田町に作業所が出来るのなら、名前は是非「さぼてん」をとの地元の皆さんの強いご要望があったからだ聞いています。砂漠のような過酷な環境の中でも、白い花を咲かせ懸命に生きているさぼてんように、力強く歩んでいこうという願いがこめられています。

ふくら作業所がふくらの森(生活介護)、さぼてん作業所がワークスさぼてん(就労継続B型)に生まれ変わるために、再びふくらの森に戻られた利用者の方も何名かおられます。そして、さらに今年度、ゆるりが出来、8名の方がさぼてんから移行されました。

こうして振り返ると、ワークスさぼてんが共同作業所として生まれてから、紆余曲折いろんな事があって今のワークスさぼてんが存在している事を痛感します。しかしながら、これまでの動きは、利用者の皆さんの活動が少しでも充実したものになるようとの想いからです。

現在は、就労継続B事業所として、富久や様のご協力のもと社内の洗浄作業を、長浜卸売市場内の合同青果様のご協力のもと、同じく社内で野菜の袋詰め作業をさせていただいています。

会社の中でする仕事は、就労に近い形で作業出来ることが大きなメリットであり、その事を通じて、一人でも多くの利用者の方が、さぼてんの様に過酷な状況であっても力強く一步一步一般就労への道を歩んでいかれることを期待しています。また、一般就労までは行かなくても、働くことの大切さ、喜びが感じられる事業所にしていきたいと思ひます。そのためにもこれからも、地域の皆様の大きな力、ご理解ご協力が必要です。



現在も、地域の皆様や行政様から多くの仕事をいただいております。さぼてんはまだ、満9歳。まだまだこれから長い人生を歩んでいきます。今後とも宜しくお願いいたします。

湖北会30年に思う



やまぶき 今井寛明

縁あって湖北会に勤めるようになって15年目と、湖北会30年の半分の年を迎えてしまいました。福祉、障害ということなど全く知らなかった自分にとって、毎日が勉強であり新しい経験・体験の連続でした。特に利用者・障害当事者との関わりから、日常生活での思いや悩みなど多くのことを聴き、知り、教えてもらい学ぶ機会を与えてもらいました。しかし、湖北会の理念である『すべては、あなたの「笑顔」のために』と言いながら、この15年間の貴重な時間、利用者一人ひとりに、果たして何ができたのだろうか？どれだけ向き合ってきたのか？本人の願いや思いに寄り添った支援ができてきたのか？と考えることが多々あります。

湖北会30年、やまぶき7年、自身15年、これからも年を重ねていきますが、湖北会に関係する皆が、笑顔のある日々を共に過ごしていけたらと思います。

地域に開けた法人、障害のある方々やその家族等の皆さんが頼れる湖北会でありたい、自分自身もまだまだ未熟ではありますが、いつまでも障害のある方の立場に立ち共感できる支援者でありたいと思います。



☆ やまぶきシフォン

賤ヶ岳の7本槍にちなんで7種類のシフォンを製造・販売

値段はお手頃、H24.3月に新工房も完成し、量産体制も整いました。

あとは貴方の笑顔に出会うだけ！

- 平成 1年4月 余呉町ふきのとう作業所 開設
- 平成 3年7月 木之本町やまいも福祉共同作業所 開設
- 平成 16年7月 伊香郡4町の共同事業として施設整備計画
- 平成 17年7月 両作業所統合により 湖北会 に加入
- 平成 19年2月 やまいも・ふきのとう作業所 開設
(定員：生活介護 15名、就労継続支援B型 15名)
- 平成 20年4月 やまぶき に名称変更
☆「やまいも」の「やま」と「ふきのとう」の「ふき」をなぞって、『やまぶき』
「やまぶきはバラ科の落葉低木、野山に漂と咲き乱れ、黄金色で人々の目をひく花」
『やまぶき』がいつまでも輝き続けること を期待して命名
(定員：生活介護 30名、就労継続支援B型 10名)
- 平成 24年3月 旧やまいも福祉共同作業所建屋の改修



～ できることから『こつこつ』と～

活気ある作業活動の提供 創作活動メニュー

— 地域とのつながりを大切にして、毎日を 生き生き と楽しく過ごします。 —



皆さまに支えられて 4年

ライフまいばら 井下山貴

社会福祉法人湖北会ライフまいばらは滋賀県米原市大鹿514番地に、平成20年4月に開所させて頂き、現在で4年が過ぎました。皆さま方のご尽力により開所させて頂くことができ、また、皆さま方の御理解と御協力により現在に至れています。深く御礼を申し上げます。ライフまいばらの4年という歴史は、まだまだ浅いですが、しかし、この4年には本当に素晴らしい歴史が詰め込まれています。この素晴らしい歴史を未来のライフまいばらへ引次いでいきたいです。

私が、ライフまいばらに赴任してきたのは今年度の4月になりますが、その時ライフまいばらの正門右手にある大きな桜が満開でした。この桜の木は以前から植えられているもので、近所でもシンボリックな桜らしいです。その他にも数本の桜の木が植わっており、満開の時は大変見ごたえがあります。しかし、咲いているのもわずかな期間ですぐに散ってしまい、少しさみしい気分でしたが、6月くらいより、桜の葉が青々しくおい茂ってきます。桜の生命力を大きく感じることができ、自分自身にも大きな勇気を与えてくれました。

さて、ライフまいばらでは、開所当時より、クラブというものがあります。現在では、マルチメディア、フィットネス、散歩、スポーツ、アウトドアと就労B型活動の6つのクラブがあります。マルチメディアクラブは、色々な文化や情報に触れることを目的とし、映画鑑賞、カラオケ、買い物、読書などを行いました。フィットネスクラブでは、健康の維持、増進を目的とした運動を行っています。バスケット、風船バレー、バレーボール、バトミントン、テニスなどを行いました。散歩クラブも、健康の維持、増進を目的としています。スポーツの森、曽根沼公園、キャスルロードなどに歩きに行きました。スポーツクラブでは体育館でのスポーツやグランドゴルフ、野球、伊吹山登山などを行いました。アウトドアクラブは、今年度できたクラブでアクティブな活動を行っています。奥伊吹の山登りと水遊び、虎御前山登りなどを行いました。就労B型活動では、少しでも就労への意欲が高まるような活動を目的としています。10月には、県内の事業所の店舗に見学に行きます。すべてのクラブの紹介をしましたが、4年間の間で、クラブの内容も年々吟味され良いものになってきています、できるだけ利用者の皆さまが自発的に参加できるような内容を考えています。

次に、ライフまいばらは、おなじみの「ぱんげあ」をさせて頂いています。皆様方のお陰で利用者の皆さまに工賃を支払うことができます。ぱんげあでは、利用者一人一人が販売スタッフとしての自覚や、技術を身に付けられるように本人の状態に合わせて支援をしています。そして、お客様との関わりを大切に、社会との関わりを持っていきたいです。しょうがいを持った人が地域で自立を目指し働く場所としての役割を担っていきたいです。

最後になりましたが、「すべてはあなたの笑顔のために」を目指し、「支援する力」をつけていけるように日々努力をしていきたいです。今後とも宜しくお願い致します。

笑顔の大切さ

ゆるり 服部美穂



湖北会が30周年を迎えるにあたり、この節目の年に新事業所「ゆるり」が開所されたことはとても感慨深いものがあります。

私が奉職してから今日まで、社会情勢の変化に伴い、法改正や制度改革がめまぐるしく行われ、当法人の事業運営も広く深く発展してきました。

湖北会では、サービスの在り方についての議論を幾度となく戦わせてきました。

そんな中で、いつも気付かされることは、この仕事をさせていただいていることへの感謝の気持ちの大切さです。

私は今、「ゆるり」の事業展開を考える時、チームがいかに機能していくかという点に重きを置いています。

定員40名のところ現在22名の利用者さんと職員13名の小さな集団ですが、職員個々其々の良さや強みがチームにいい影響を与えてくれていると信じています。

一人の力がよりよく発揮され、意味のある支援につながっていくためには、チームが機能していなければなりません。チームが機能するためには、同じ方向を見つめられる環境が必要です。その環境には、職員自身の心のバランスが大切だと考えます。

「すべてはあなたの笑顔のために」・・・

私たち自身が心も体も健康であり、笑顔いっぱいであれば、利用者のみなさんを支えていくことはできません。

「ゆるり」は今始まったばかりです。

これから、利用者の皆様や地域の皆様に愛される施設となるよう、チームで笑顔を目指していきたいと考えます。





グループホームの現状

GH 管理者 大音裕之

湖北会では、去る10月17日、起工式を終え、現ホーム「浅井」の隣接地に平成25年4月に新しいホームを開設予定です。「浅井」を男性のホーム、新ホームを女性のホームとする計画で、それぞれ4名の募集となり、懸案の入所施設からの利用者移行を第一目的とし、地域からも若干名の募集をすることになります。これについては湖北会入所施設や他の事業所のご利用者・ご家族に対して希望等のアンケート調査を行っており、長浜市・米原市・相談センター「ほっとステーション」にも情報の提供をお願いしているところです。地域からは相当のホーム利用希望者がいらっしゃると思いますが、11月末には、アンケートの回答結果等から関係機関と調整会議を持ち、利用希望者の選考を行う予定です。

また、現在のホームを利用されている方の中にも、新ホームを含む他のホームへの移行の必要性のある方もいらっしゃいますので、通所先のことも考慮しながら検討していきたいと考えています。

さて、前後しますが、湖北会のホームを利用されていた女性1名が、ようやく「アパートでの一人暮らし」という希望が叶い、この9月から地域のアパートで生活されています。これについては、後見人や権利擁護・相談センターの担当者等と会議を重ね、第一ステップとして約1カ月の実習の間、生活支援員が交代で食事・買い物・健康管理等、一人で生活していくためにどうすればよいのか、どの部分の支援が必要なのかご本人と話し合い支援しながら進めてきました。今後は、食事や買い物および通院等については地域支援センター「あ〜と」のサービスを使い、困った時には「ほっとステーション」へ相談するなどしながら、自立した豊かな生活をしていただけることを願っています。今後、このケースにならって「自分も一人暮らしがしたい」という思いを持っていただけるような支援をしていきたいと思っています。

ただ、残念ながら嬉しいことばかりではありません。利用者の加齢に伴い、通院回数は増加の一途をたどっており、入院・手術されるケースも多くなってきました。幸い、今期は全員が退院され、ホームで生活されていますが、一時的にでも車椅子を使用せざるを得ない期間が必要であったり、夜間に通常以上の見守り・介助が必要になったりと、現在の湖北会のホームの支援体制では支援困難な場合も出てきており、高齢者施設への移行も視野に入れておく必要のある方も複数いらっしゃいます。こういった問題は今に始まったことではありませんが、ご利用者の安心・安全な生活を考えた時に、福祉体系の不十分さを考えてしまいます。



上棟式を終え建設中の「笑ハウス (仮称)」

H24 年度、湖北会緊急研修事業（第1段）

「施設における障害者への虐待とその予防について」

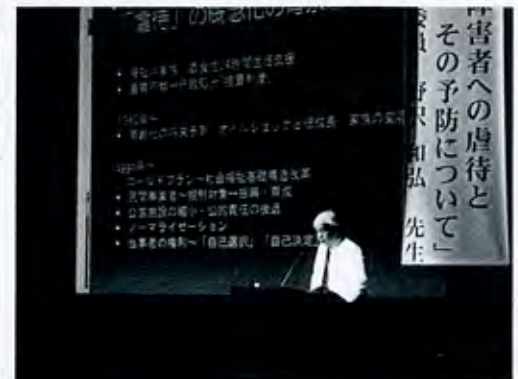
研修事業

講師：野沢和弘 氏

去る6月26日(火)、法人下で「認識のない不適切な行為」があったことを受けて、障害者の虐待問題について深い見識をお持ちの毎日新聞論説委員、野沢和弘先生を講師にお招きし、法人内職員はもとより県内の関心を持たれている関係機関にも働きかけ、障害者への人権意識を高めるための講演会を開催いたしました。

浅井文化ホール（大ホール）にて、13：00からと18：00からの2回に分けての講演でしたが、合わせて400名ほどの参加になりました。その時に回収されたアンケートや法人職員全員提出という個々の感想文からも、この研修が本当に有意義なものであり、今後の障害者支援に繋がるものだと多くのご意見を頂きました。

また、虐待はいつでもどこでも起こりうるものであり、悪意がなくても虐待は起き、自覚がなくても虐待をしている事はある、障害者はそこで深く傷ついている事があるのだという認識も高まった事と思います。虐待要因の早期発見・早期対応の大切さ、見て見ぬふりが虐待の芽を助長させるものであることなど色々と学ぶ事は多かったと思います。野沢先生の講演が具体的な内容であり、聞くものすべてが共感を得た事と思います。



H24 年度、湖北会研修事業(第2段)

「障害者虐待防止法施行に向けて」

講師：田嶋明日香 弁護士

今回は法人内研修ということで、すでに10月1日に施行されました「障害者虐待防止法」について皆で共通の理をしようと、彦根市にあります滋賀弁護士会しろまち法律事務所の田嶋明日香弁護士を講師にお迎えし、去る、9月11日(火)浅井文化ホール(小ホール)で14：00からと18：00からの2回に分けて講演会を開催いたしました。

皆さん真剣な眼差しで聴かれたり、メモを取ったりされる姿が印象的でした。

「障害者虐待防止法」は責任追及や非難といった所を払拭して、事態の悪化に向けて何かないか、支援者が深刻化する前に何か支援のきっかけはないか、ということを探る事が目的であり、

虐待の防止には早期発見が大事であり迅速な対応が求められるとともに、市町村の協力や支援がそこに必要欠くべからざるものである等の共通理解がもてたかと思えます。

身体的虐待、心理的虐待等についても具体的な例も掲げて解り易くお話を頂きました。講演の2回の合計が230名ほどで、勤務から離れられない職員の他は、ほとんどが参加という結果でした。



平成 24 年度 当初予算 決算
【法人合算】

社会福祉法人 湖北会

	合算	一般会計	就労支援会計
下請事業収入	22,596,000	0	22,596,000
自主事業収入	13,614,000	0	13,614,000
委託事業収入	18,696,000	0	18,696,000
就労支援事業収入計	54,906,000	0	54,906,000
就労支援事業支出計	54,906,000	0	54,906,000
就労支援事業収支差額…①	0	0	0
自立支援費収入	1,058,051,000	0	1,058,051,000
補助事業等収入	1,120,000	1,120,000	0
受託事業収入	85,230,000	85,230,000	0
経常経費補助金収入	0	0	0
寄附金収入	70,000	0	70,000
雑収入	17,197,000	432,000	16,765,000
借入金利息補助金収入	47,000	0	47,000
受取利息配当金収入	1,180,000	1,100,000	80,000
その他の収入	0	0	0
経理区分間繰入金収入	150,268,679	102,970,679	47,298,000
福祉事業収入計	1,313,163,679	190,852,679	1,122,311,000
人件費支出	730,410,000	103,968,000	626,442,000
事務費支出	196,117,679	27,211,679	168,906,000
事業費支出	156,176,000	0	156,176,000
借入金利息支出	5,494,000	0	5,494,000
経理区分間繰入金支出	150,268,679	53,854,679	96,414,000
福祉事業支出計	1,238,466,358	185,034,358	1,053,432,000
福祉事業活動資金収支差額…②	74,697,321	5,818,321	68,879,000
施設整備等補助金収入計	0	0	0
固定資産取得支出	12,383,000	0	12,383,000
施設整備等補助金支出計	12,383,000	0	12,383,000
施設整備等資金収支差額…③	△ 12,383,000	0	△ 12,383,000
借入金元金償還補助金収入	17,428,000	0	17,428,000
借入金元金償還補助金支出	17,428,000	0	17,428,000
借入金元金償還金支出	27,908,000	0	27,908,000
積立預金積立支出	0	0	0
その他の支出	7,450,000	0	7,450,000
財務活動収入計	17,428,000	0	17,428,000
借入金元金償還金支出	35,358,000	0	35,358,000
積立預金積立支出	△ 17,930,000	0	△ 17,930,000
子備費	44,394,321	5,818,321	38,566,000
当期資金収支差額合計…④	0	0	0
前期未支払資金残高…⑤	0	0	0
当期末支払資金残高⑤+⑥	0	0	0

社会福祉法人湖北会 資金収支計算書

【法人合算】

(自)平成23年4月1日 (至)平成24年3月31日

	子 算	決 算	差異(子算-決算)
下請事業収入	22,840,000	23,523,545	△ 683,545
自主事業収入	34,467,000	35,548,730	△ 1,081,730
委託事業収入	19,171,000	19,833,247	△ 662,247
就労支援事業収入計	76,478,000	78,905,522	△ 2,427,522
就労支援事業支出計	76,478,000	79,969,170	508,830
就労支援事業収支差額…①	0	2,936,352	△ 2,936,352
自立支援費収入	1,013,777,000	1,021,196,648	△ 7,419,648
補助事業等収入	3,377,000	3,243,500	133,500
受託事業収入	86,779,000	85,024,464	1,754,536
経常経費補助金収入	47,969,000	46,788,968	1,180,042
寄附金収入	13,628,000	13,630,946	△ 2,946
雑収入	19,716,000	20,189,183	△ 472,183
借入金利息補助金収入	3,842,000	3,844,074	△ 2,074
受取利息配当金収入	1,548,000	1,951,175	△ 3,175
その他の収入	0	0	0
経理区分間繰入金収入	147,270,100	144,081,729	3,188,371
福祉事業収入計	1,337,906,100	1,339,549,677	△ 1,643,577
人件費支出	696,203,000	696,224,005	△ 21,005
事務費支出	199,165,960	206,235,122	△ 9,069,162
事業費支出	146,087,000	146,321,117	△ 234,117
借入金利息支出	8,534,324	8,529,324	4,676
経理区分間繰入金支出	147,270,100	144,081,729	3,188,371
福祉事業支出計	1,197,260,060	1,203,391,297	△ 6,131,237
福祉事業活動資金収支差額…②	140,646,040	136,158,380	4,487,660
施設整備等補助金収入計	160,129,000	160,129,000	0
固定資産取得支出	355,980,000	347,645,418	8,334,582
施設整備等補助金支出計	355,980,000	347,645,418	8,334,582
施設整備等資金収支差額…③	△ 195,851,000	△ 187,516,418	△ 8,334,582
借入金元金償還補助金収入	180,734,000	180,733,900	100
借入金収入	110,000,000	110,000,000	0
借立預金取崩収入	29,747,000	10,535,630	19,211,370
財務活動収入計	320,481,000	301,269,530	19,211,470
借入金元金償還金支出	186,814,000	186,813,900	100
投資有価証券取得支出	0	0	0
積立預金積立支出	153,000	1,758,712	△ 1,605,712
その他の支出	55,325,000	58,501,403	△ 3,176,403
財務活動支出計	242,292,000	247,074,015	△ 4,782,015
子備費…④	78,189,000	54,195,515	23,993,485
当期資金収支差額合計…④	16,287,140	5,773,829	10,513,311
前期未支払資金残高…⑤	431,002,939	438,005,271	△ 7,002,332
当期末支払資金残高④+⑤	447,290,079	443,779,100	3,510,979

平成23年度湖北会后援会決算報告

<収入>

項目	予算金額	決算額	備考
会費	550,000	269,000	個人34名・5団体
寄付金	10,000	0	
その他	0	0	
合計	560,000	269,000	

<支出>

項目	予算額	決算額	備考
助成金	433,000	268,020	込268,020
事業費	66,000	900	
割引券代	66,000	900	
事務費	51,000	80	
消耗品・通信費	40,000		
印刷製本費	5,000		
振込料	5,000	80	
租税公課	1,000		
予備費	10,000	0	
合計	560,000	269,000	

平成23年度会員の皆様、ご加入いただき誠にありがとうございました。

引き続き平成24年度会員募集中です。

年会費

個人の方 : 一口 3,000円

団体会員様: 一口 10,000円

入会ご希望の方は、湖北会各事業所又は法人本部で受け付けております。

また、振込でも受け付けております。詳しくは下記までお問い合わせください。

湖北会后援会事務局

電話0749-72-8006

(担当:川幡)

編集後記

師走の声を聞き、冬囲い・大掃除・お正月準備と慌ただしくなっていました。

今回の広報は、本来「こほくかい秋号」として発行されるべきものでしたが、今年度発行が中止になりました。「三〇周年記念誌」に近い内容の物をということでも「こほくかい特別号」とし、タイトルを「社会福祉法人湖北会 ありがとう三〇年」としました

そして、各事業所の歴史や思いを寄稿しました。

広報も「湖北会(関谷理事長題字)が平成十一年九月一日創刊号として発行され、平成二十年より「こほくかい」の平仮名の題字になりました。

湖北会三十年と今ある現在、今は亡き松村良蔵理事長、関谷好民理事長をはじめ沢山の功労者の皆様のご尽力と、地域の皆様のご理解、ご支援、ご協力を頂いてきた事によるものと思います。

重い歴史を感じるとともに、深く感謝の念が沸き起こっています。

台掌



すべてはあなたの「笑顔」のために

○発行 湖北会 広報室(法人本部内)

○発行責任者 赤井 耕太郎

○住所 滋賀県長浜市湖北町山本621-5

○発行日 平成24年12月15日